

第 39 回 START プログラム (タイ)

2017 年 2 月 28 日 (火) から 3 月 16 日 (木) までの約 2 週間、第 39 回 START プログラムに学部 1 年生 24 名が参加し、引率の桑山尚司講師 (教育学研究科) ら 2 名の引率教職員とともに、タイ王国バンコクにあるチュラーロンコーン大学に留学し、講義を受講したほか、現地の日本企業やタイの教育機関等を訪問しました。

チュラーロンコーン大学では、タイ語の授業のほか、タイの経済、政治、歴史、文化や、英語でプレゼンテーションをする際に必要となるテクニック等に関する講義を英語で受講しました。学生たちは、今までタイ語に触れたことはほとんどありませんでしたが、基本的なタイ語を学び、現地の方々と交流を重ねることで、現地の言葉でコミュニケーションを行うことの大切さを実感していました。また、英語による講義は、当初理解することに苦労していましたが、日々のチュラーロンコーン大学の学生との交流や、参加者同士での情報共有を経て、講義内容に関することやタイに来て感じた疑問を積極的に英語で質問していました。

講義以外の場では、チュラーロンコーン大学の学生とキャンパス内及びキャンパス周辺を見学したり、互いの国の文化を紹介しあったりして交流を深めました。また、現地日本企業や教育機関を訪問し、学生たちは、海外で働くことの楽しさや課題、グローバル人材についての講義を受け、自身の将来について考える機会となりました。その他、現地研修では、バンコク近郊の寺院や世界遺産であるアユタヤ歴史公園を訪問するなど、歴史的建造物見学を通して、タイの歴史や文化の多様性を学びました。

最終日には、渡航前の事前学習及び現地で各グループが関心を持ったテーマ (タイにおける政治、経済、社会、教育、文化) について、現地での学習や現地大学生へのインタビュー調査をもとにまとめた成果を英語で発表しました。

また、送別会においては、研修中お世話になった先生・学生の方たちに、充実した 2 週間を過ごせたことへの感謝を伝え、別れを惜しみました。

帰国後の事後研修では、本プログラムを通して学んだこと、及びこの経験を今後大学生活や将来にどのように生かしていきたいかを発表することで、これからの目標を再確認し、そこに向かってどのように努力すべきかを具体的に考えることができました。



チュラーロンコーン大学の学生との交流



アユタヤ遺跡訪問



企業訪問時のワークショップ



学習成果発表会の様子